宇宙への興味

苫小牧高専　電気電子工学科４年　加藤　桃子

　小学生のころから宇宙には漠然とした興味があった。宇宙とは何があるかわからない世界。誰も知らない何かがある場所。ロケットが宇宙へと飛んでいく姿をかっこいいなと思いながら映像を観ていた。

　なぜ宇宙があり、地球があり人が生まれたのか。私は気になる。人は知らないことを知りたいと感じるものだと考える。ホーキング博士の小学生向けの本を何度も読み返している。高専に入ってからもだ。毎回読むたびにわくわくする。小学生の女の子と男の子が宇宙を冒険する物語だ。その本で宇宙の星や惑星、ブラックホールそして量子力学について知ることが出来た。これがきっかけで量子力学に興味を持つようになった。

　宇宙のことを知ろうとしたら、人間を構成する原子の内部について知ると共通するのだ。そこに強く惹かれる。素粒子を調べようとしたら、宇宙から飛んでくる宇宙線を調べることになる。人と宇宙はつながっている。とても面白くて不思議なことだ。

　なぜ私は生まれたのかを知ることは、つまりは宇宙を知ることだろう。だから宇宙を知りたい。そのためにも宇宙理工学を学びたいと私は考える。